

湘南鎌倉生涯現役の会創立時の思い出

桑原啓二

「ひとつおつう、ふたあつう、みいいつう、よおおつう・・・。」と十まで深く吐く息吸う息を調べ繰り返すのである。

瑞鹿山円覚寺は明治時代以降広く世間に開かれた禅寺です。山内には学生や社会人に向けた「居士林」という坐禅道場があります。

25年前、湘現会の創設者灘上哲之助氏との出会いの場です。

灘上さんは大阪陸軍幼年学校、陸軍士官学校更に陸軍航空士官学校を経て本土決戦要員として満洲に温存された経歴をもつお方です。

戦後は神戸大学を卒業され大阪商船㈱に入社、亡き戦友の分までもと一所懸命に働かれ定年を迎えられました。

当時ライフアドベンチャークラブの東瀧邦次先生が「生涯現役と生き甲斐づくり」を頻りに説いておられました。

定年を迎えてもまだまだ元気な者達へ「精力善用」を勧めておられたのです。

灘上さんも「俺も一つやってやろう。」と決意され、講習会などで研究された後創設されたのが「湘南鎌倉生涯現役の会」なのでございます。

灘上さんの「菩提心の発露」が設立の動機なのでございます。

私は会計事務所に勤務いたしておりましたので「桑原くん

会計を担当してくれ。君にも菩提心の一欠けらはあるだろう。」と説得され参加させて頂きました。

まことに「袖すり合うも多生の縁」なのでございます。